

税金との関係性

飛島村立飛島学園

9年 岩田 実華

私が住んでいる飛島村では、中学二年生になると海外派遣に参加することができます。コロナウイルスの影響で私達の学年は中学三年生で海外派遣に参加することになりました。海外派遣研修で様々な説明を聞いたとき、初めての海外への期待がふくらむのと同時に、参加するためのお金はどこから支払われているのか疑問に思いました。母にそのことを質問してみたら、「村の税金から飛行機代やホテル代などの全額が支払われている」ということを教えてくれました。私にとって税金は消費税というしくみがあるから仕方なく払っている、どこで誰に使われているのかがよく分からないものという感じであまりよいイメージはもっていませんでした。なので自分自身に関係するところで税金が使われていてすごく驚きました。他にもどんなところで税金が使用されているのか気になったので調べたり、両親に聞いたりしました。そうしたら、私が去年受けた英検の受験料や給食費、それ以外にも数えきれないくらいのところで税金が使われていることが分かりました。

最近よくSNSで「税金なんて払いたくない」「増税反対」という言葉を目にします。まだ消費税以外の税を納めたことがない私でも消費税・税金なんてなくなればいいなと思っていたので、私の何倍・何十倍の税金を納めている人達からこのような言葉がでてくるのは当たり前だと思います。この意見を無くすためには税金を減額するだけでなく、税金を納めてもいいと思えるようなお金の使い方をすることが必要だと思います。実際に私の両親は、私や弟・妹の給食費に使用したり、これからの未来をつくっていく子供達のために使ったりするのなら税金を納めてもいいと言っていました。このように、「このことになら」税金を納めてもいいという使い方が日本中にもっと広まれば、税金のしくみに不満をもつ人が減るのかなと感じました。さらに「未来をつくる子供達のためなら」という両親の言葉を聞いて、私がお金を払わず税金で海外派遣に参加することができるのは両親と同じ思いをもった村の人達のおかげだと知ることができました。

私達のためにならと言って納めてくれた税金を無駄にしないように、まずは八月の海外派遣でたくさんを経験、学んできたいです。そして将来大人になったときには私の両親や飛島村の人達のように、自分のことばかりではなく将来の日本を引っばっていく子供達のことを考えて税金を納めることができるカッコいい人でいたいです。